

総合診療科

★診療科概要

島根県立中央病院の総合診療科は、医学が細分化および専門分化している昨今、患者さんを人間として、全人的に、総合的にみることを目的として平成6年4月に開設された。開設当初は2名のスタッフでしたが、現在では月曜日から金曜日3から4診体制で診療を行っています。

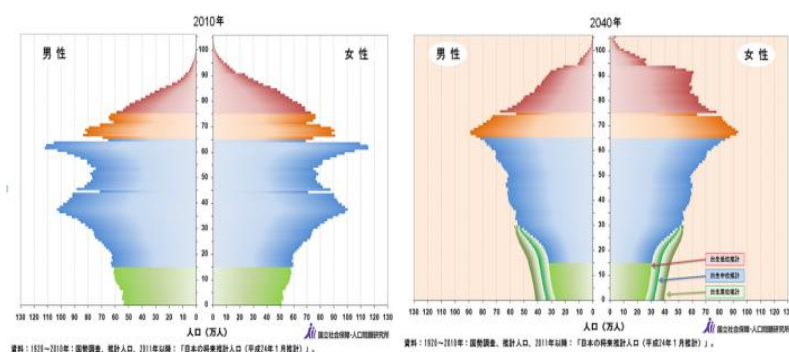
★対象患者

- ・他の病院などから紹介状をもらわずに来院した患者さんや、特に診てもらいたい診療科が明確ではない患者さん
- ・他の病院などから総合診療科へ紹介状を持って来院した患者さん
- ・各種の健康診断、予防接種、禁煙を希望される方
- ・人間ドック、各種の健康診断等で再検査ないし精密検査が必要と言われた方

このような患者さんを診察して、必要に応じて検査や他の診療科に診察依頼をしながら診断し、治療している。結果的には気管支炎、肺炎、感染性胃腸炎等の治療、高血圧症、高脂血症、脂肪肝等といった生活習慣病の指導、心身症等の診断とケア等が仕事の多くをしめている。

しかしながら、時には心筋梗塞、肺梗塞といったすぐに入院して精密検査を要する病気であったり、手術が必要な悪性腫瘍などの患者さんもおられ、その方に最もふさわしい診療科に紹介している。さらに、地域医療科と連携して地域医療機関の代診業務等の地域医療支援を行っている。

今後の医療を取り巻く環境について



高齢者人口の増加

- ✓現在 高齢化率23%→4.5人に1人
- ✓2040年 高齢化率35% 高齢化率35%→3人に1人

↓
複数疾患を抱える方が増えてくる

そこで総合医の出番です！

- ✓幅広く診察する事で、より迅速的確に鑑別診断ができる
- ✓複数疾患を持つ患者さんを1人の医者がマネージメントできると患者の利便性も高まる

2025年問題 あと数年しかありません！

=多死時代を迎える=

団塊の世代800万人が2025年頃までに後期高齢者になる事で医療費の急増、医療資源の不足が懸念される問題

- ✓現在 130万人/年
- ✓2040年 170万人/年

現在病院で亡くなられる方- 約8割
余命が限られた場合自宅で過ごしたい人- 約8割

実はそんな先の問題でもありません！

- ✓cureのみではなくcareも
→NBM(Narrative-based medicine)
- ✓地域包括医療・ケア

《島根県の特徴》

- ①高齢化率が高い 34.0% 全国3位(H30.10.1)
- ②医師不足
医師数密度:28人/100平方キロメートル(全国平均約78人)
必要求人医師数:1.24倍(全国1位)

総合診療科ではこんな疾患を診ることができます。

(2019年4月1日~2020年3月31日)

総合診療科の主病名ICD-10	件数
筋骨格系および結合組織の疾患	1024
呼吸器系の疾患	988
症状・徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	825
循環器系の疾患	689
内分泌・栄養および代謝疾患	594
消化器系の疾患	369
感染症および寄生虫症	306
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	256
精神および行動の障害	237
神経系の疾患	219
新生物	125
腎尿路生殖器系の疾患	125
皮膚および皮下組織の疾患	105
損傷、中毒およびその他の外因の影響	88
健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	83
耳および乳様突起の疾患	23
先天奇形、変形および染色体異常	11
眼および付属器の疾患	9
合計	6058

主病名ICD-10	件数
呼吸器系の疾患	328
感染症	52
腎尿路生殖器系の疾患	47
症状・徴候および異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	34
内分泌・栄養および代謝疾患	33
筋骨格系および結合組織の疾患	30
新生物	14
神経系の疾患	14
循環器系の疾患	11
消化器系の疾患	11
血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	9
皮膚および皮下組織の疾患	9
損傷、中毒およびその他の外因の影響	6
耳および乳様突起の疾患	4
精神および行動の障害	3
合計	605

